

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第53回 北海道博物館大会 旭川市大雪クリスタルホールで開催!!

大会初日の7月10日午前は、開会式、総会、表彰式、特別報告が行われた。

表彰式では、博物館協会及び各館園に顕著な功績があったとして、2団体と個人1名に表彰状と記念品が授与された。

特別報告では、日本博物館協会の半田専務理事から日本博物館協会の事業について、文化庁文化財部伝統文化課の神代課長から「民族共生の象徴となる空間」における博物館構想について報告があった。

昼休憩には受付前でポスター解説と商品展示が行われ、多くの参加者でにぎわった。

午後の部は一般の方の参加も可能となり、『博物館には学習資源がいっぱい～学校利用の促進を考える』というテーマで、基調講演とシンポジウムが行われた。

国立科学博物館事業推進部学習企画調整課の小川課長による基調講演では、博物館を取り巻く環境や、学校と博物館の連携における課題や取り組み例をふまえ、博学連携の意義についてお話いただいた。

休憩をとった後、基調講演でお話いただいた小川氏にコーディネーターを務めていただき、シンポジウムが開かれた。

パネリストに、旭川市立東町小学校の井谷教諭、旭川市立東光小学校の佐藤教諭、オホーツクミュージアムえさしの高島館長、旭川市彫刻美術館の山脇学芸員を迎え、それぞれパワーポイントを提示していただきながら、約20分ずつ発表いただいた後、質疑応答が行われた。

井谷氏と佐藤氏からは、学校から見た博物館・科学館の利用についてお話いただいた。博物館を利用する理由やメリット、教育プログラムの組み立て、成果と課題などを、実際に授業で博物館施設を活用した例を基に発表いただいた。

高島氏と山脇氏からは、博物館・美術館の出前講座や体験学習メニューについて、それぞれの館の実例を紹介していただいた。学校との連携だけではなく、地域の専門家やボランティアの活用、他の博物館施設や大学などと連携も含んだ内容をお話いただいた。

他館の博学連携の取り組みを知るとともに、地域における博物館施設の役割を再確認する機会となった。

大会二日目の7月11日は、旭川市内の博物館施設を巡るバス見学会が行われた。旭川市博物館を出発し、旭川市科学館サイパル、井上靖記念館、JR旭川駅内にある彫刻美術館ステーションギャラリーをまわり、駅で解散となった。天気が心配されたが、大雨に降られることはなく、無事に二日間の日程を終えた。



開会式風景



シンポジウム風景

(旭川市博物館 学芸員 飯岡郁穂)



余市水産博物館特別展 「考古遺物が語る余市の歴史」の開催

余市水産博物館では、8月26日から11月3日まで第39回特別展「考古遺物が語る余市の歴史～旧石器から近世・近代まで～」を開催しています。

余市町では、現在64ヶ所の遺跡が知られており、昭和30年代から今日まで数十ヶ所の発掘調査が行われ、大量の考古遺物が保管されています。

今回の展示は、個人資料を含め、発掘調査によって出土した資料約280点を見ることができます。

旧石器時代では、冷水峠遺跡出土の細石刃と細石核等は初公開の資料として注目です。

縄文時代では、木村台地、フゴッペ貝塚、大谷地貝塚、沢町遺跡等から出土した早期の貝殻文土器から晩期の亀ヶ岡式土器までの変遷を知ることができます。土製品として小形の板状から大形の中空土偶をはじめ、手形・足形付の土版、装身具としてヒスイ製の勾玉、蛇紋岩製の丸玉、石製品では四脚付の石皿、刻文の施された石環などの資料を展示しています。

続縄文時代では、大川遺跡を主として恵山文化に伴う魚形石器をはじめ、装身具として管玉やコハク玉などの首飾りが注目です。

擦文時代では、天内山、大川遺跡を主とした刻文土器、土師器、須恵器をはじめ、青銅製の鈴、帯金具、鉄製の直刀の資料を展示しています。

中～近世では、中国製の青磁碗や北宋銭、和鏡、トンボ玉や青玉のガラス製首飾り、飾り太刀、肥前陶磁器などの資料を展示しています。

これら各時代の考古遺物を通してロシアを経由した北方文物や本州の南方文物によって日本海交易の実体を窺うことができます。

展示の考古資料は、北海道でも至宝と言えるものばかりですので、この機会に是非ご来場して頂ければ幸いです。



考古遺物が語る余市の歴史

(余市水産博物館 館長 乾 芳宏)



「道南文化財マップ」の 実現に向けて

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、6月24日の総会に合わせて「道南文化財マップ」に関する研修会を開催しました。

道南文化財マップは、昨年度から取り組みを本格化させたもので、ウェブマッピングにより、石碑や史跡などの文化財情報の公開と蓄積を目指しています。

当初は道南ブロック・ブログ (<http://dounan.exblog.jp/>) での公開を予定していましたが、効果的な公開サイトの構築に向けて、公立はこだて未来大学との連携が提案され、協議を進めています。

今回の研修はその第一弾で、同大学准教授奥野拓氏による「文化財情報の蓄積とオープンデータ化に向けて」と題した報告と、仮サイトでの情報アップロード作業など、操作研修を実施しました。

「オープンデータ」とは、二次利用が可能で、しかも他のサイトが利用しやすいデータ形式で公開するもので、データの利用を通じて、提供元である博物館への理解を深めてもらおう、という取り組みです。

すでに大学側では、函館市の観光情報を素材として、オープンデータ化の取り組みを進めており、函館市

公式観光情報サイト「はこぶら」や「函館まちあるきマップ」などの情報を転用した、街歩きアプリ「はこだてMap+」(iphone,ipad用アプリ)を公開しています。

学芸員は質の良い情報の提供が可能です。学芸員発の情報を、このような「利活用」の共同研究の環の中で広く公開し、情報発信力を高めれば、館活動や学芸員への理解は、より一層進んでいくものと思います。

研修会後に行われた総会で、大学との連携を進めることが確認され、現在、大学とサイトの立ち上げに向けての確認作業を進めています。



当日の操作研修作業

(市立函館博物館 学芸員 奥野 進)



名寄市北国博物館 特別展 「昭和の夏休み～玩具で見る遊びの移り変わり～」

名寄市北国博物館では、7月19日から8月24日まで、第30回特別展「昭和の夏休み～玩具で見る遊びの移り変わり～」を開催しました。

いつの時代も子供のそばにあった「玩具」をテーマに昭和の時代をクローズアップした今回の特別展では、会場を昭和30年代、40年代、50年代と三部屋に分け、それぞれの年代の玩具を実際に手にとって遊べるようにし、夏休み中の子供達、家族連れに楽しんでもらう展示会にしました。

また、北国博物館の常設展示室は「冬」の暮らしをテーマにしていますが、今回は正反対の「夏」の暮らしをイメージさせるため、畳を敷いて上に蚊帳をつるし、ちゃぶ台の上には手回しかき氷機、扇風機や蚊遣り豚など昭和の夏を思い起こさせる資料を並べた「夏の部屋」を会場中央に設置。特別展会場は昭和時代の夏休みにタイムスリップしたような空間となりました。

来館した方々を見ていると、お手玉やおはじきを孫に教えるおばあちゃん、子供と一緒にリカちゃん人形で遊ぶお母さん、ファミコンの腕前を見せるお父さんなど、昭和の遊びを通して世代間交流を図る姿が見受けられました。

また、期間中には名寄市立大学の今野道裕先生、

児童学科学生の協力を得て、子供向け夏休み講座「昔の遊びを体験しよう」を開催しました。先生の指導を受けてコマやケン玉、竹返し、投扇興に初めて挑戦する子供達。その目を輝かせながら楽しむ姿を見ていると、いつの時代の遊びも子供の心をとらえるものなのだと改めて感じました。

今回の特別展を開催するにあたり、広報誌を通じて市民に玩具の提供を呼びかけました。展示した数々の玩具はほとんどが市民から寄贈を受けたものです。使われなくなった玩具がこうして再び子供達に遊ばれている様子を見ると、その間に立てる博物館の意義に嬉しくなります。今後も市民に寄り添った博物館を目指していきます。



特別展「昭和の夏休み」 展示風景
(名寄市北国博物館 学芸員 金田卓浩)



黒獅子旗をめぐる思い出

今年は白老が町制を施行してから60年。奇しくも、白老に工場を置いていた大昭和製紙北海道の野球部が社会人野球大会で優勝し、そのシンボルである黒獅子旗を初めて北海道へ持ち帰ってから40年目となる節目の年でもあった。同野球部に関する展示会を望む声に後押しされ、陣屋資料館では4月12日から6月1日かけ、「北の若き獅子たち」を開催した。

強豪野球部の功績や町の熱狂ぶりは耳にこそ届いていたものの、資料の収集は個人蔵に依拠する部分が多く、どれだけの量が集まるのか不安があったことも確か。しかし、数名の元選手等と実行委員会を結成し、町の広報誌などで協力を呼びかけたところ、予想を遥かに上回る資料の現存が確認された。写真や当時の新聞などを除いても100点近くの資料を展示できたことばかりでなく、数十点を新たに寄贈していただいた点でも実りある企画となった。

郷土資料を保全するための働きかけが不足しているなか、関係者の褪せることない熱意が展示会の実施に結び付いたのだと実感した。

ところで当時、大昭和製紙では北海道のスポーツ振興のため町や道へ多額の寄付を行い、町では全道の中学生を対象とした軟式野球大会を立ち上げた。今

回の企画では当初からこの大会日程に照準を合わせ、全道の野球小僧の励みになればと記念講演の計画を練っていた。講師にレギュラーとしてチームの優勝に貢献した斉藤勲氏を招き、全道から集まった小さな選手たちを前に、身振りも交えながら貴重な体験談やアドバイスを語っていただいた。

雪に悩まされる北海道のチームでも、全国の強豪相手に優勝を勝ち取った経験者の言葉は、きっと野球少年たちの熱意の糧となったことだろう。



斉藤勲氏は3番サードとして優勝に貢献した
(仙台藩白老元陣屋資料館 学芸員 平野敦史)



平成26年度共催研修会 「これからの博物館」

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、中標津町教育委員会、根室管内学芸職員部会との共催で「これからの博物館」をテーマとして10月26日(日)、27日(月)に研修会を開催する予定です。

1日目は、慶應義塾大学教授玉村正敏氏を講師としてお迎えして、各地の革新的なミュージアムを様々な視点で紹介して頂きます。この他、事例発表として株式会社丹青社から、これまで数多く手掛けられてきた博物館等施設の建設についてご報告頂きます。また、ひがし大雪自然館から平成25年に環境省ぬかびら源泉郷ビジターセンターとの複合施設として新しくオープンした館の紹介と現在行われている取組についてご報告頂きます。

2日目は、エクスカージョンとして昭和2年に設置され、根釧原野の開拓と町の発展を支えてきた旧北海道農事試験場根室支場庁舎(登録有形文化財)の見学とNPO法人伝成館まちづくり協議会代表理事の飯島実氏による『ふしぎヒコーキ』の実演会。さらに、私設「荒川版画美術館」を設置している佐伯農場にて場内の芸術作品を見学する予定です。

※日 時:26日(日)受付13:00～ 開会13:30～
会 場:中標津町総合文化会館 第2研修室
日 時:27日(月) 9:00～
会 場:中標津町郷土館
問合先:中標津町教育委員会学芸係
TEL:0153-73-3111(内線275)
FAX:0153-72-7757



旧北海道農事試験場根室支場庁舎(伝成館)



荒川版画美術館

(中標津町教育委員会 学芸係 村田一貴)



網走市立郷土博物館 特別企画展「網走の昆虫展」を開催

平成26年8月1日から9月30日まで、網走市立郷土博物館では、特別企画展「網走の昆虫展～この夏どんなむしたちに会えるか?!～」を開催しました。

展示は昆虫採集をつうじて生きものの多様性にふれ、網走の自然に親しんでもらうことを目的とし、子どもはもちろん、大人でも楽しめる、奥深い昆虫採集の世界を紹介したものです。

展示は「採集道具の紹介」に始まり「見つけ採り」「トラップを用いた採集法」「昆虫標本の作り方」という採集から標本作りまでの流れで構成。ジオラマを多用して視覚的にわかりやすい展示としたほか、昆虫標本についても、いわゆる「標本」的のものではなく、生態のイメージを優先した標本を作成しました。また展示室に設けたジオラマの随所にそうした標本の一部をあわせて展示。来場者に見つけてもらう体験的要素も取り入れられました。

夏休み期間中の親子連れの来場者が多く、展示室は子どもの歓声でにぎわいました。

展示の最後のコーナーには博物館友の会顧問で瀧沸資料館館長の山田訓二氏所有の昆虫標本コレク

ションを公開。来場者はその膨大な資料数に圧倒されていたようです。

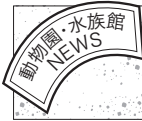
展示にあわせ期間中に博物館友の会との共催行事で「夜の昆虫観察会」も実施。夜間採集やライトトラップなど、昆虫採集の一端を体験しました。

8月のある日、夜間採集に出かけた先で、昆虫採集をする親子を見かけることができました。今回の企画展が、自然に親しむひとつのきっかけになってもらえたのなら幸いです。



「網走の昆虫展」開催状況

(網走市立郷土博物館 学芸員 梅田広大)



開館40周年おたる水族館の役割

昭和49年7月、現在の場所にオープンしてから40年が経過した。そもそも昭和33年に開催された北海道博覧会の海の会場として小樽に出来た水族館が前身で、その後、市の運営期間を経て株式会社としてリスタートした。多くの先輩達の理念に基づいた汗と努力の繰り返しがなければ今の状態はない。この節目の年に、多くの野生動物を育む自然環境の偉大さ大切さを伝えたいとの思いから、魚の中でも生態系の頂点種である「鮫」を特別展のテーマに選んだ。この冷たい海に囲まれた北海道にも生態系の頂点に君臨する鮫が暮らしていることが豊かさの証だと伝えたい。

春のオープンに合わせて、本館2階の一部を改装した。作ったのはタッチングエリアでその名を「さわってEzone(エーゾーン)」と付けた。蝦夷の生き物達に触っていいエリアという意味で、北海道の冷たい水に暮らす生き物に触れて感じてほしいと思い改装した結

果は大好評を得ている。ミズダコやタラバガ二に指先でそっと触れることで、今まで「食」としての関わりしか持たなかった生き物の本当の姿を感じることが出来る場となった。

自然とは命の連鎖の場である。命が命をつなぎ死してなおその死骸すらも次の命をつなぐ糧になる。水族館の飼育動物は、過酷な自然環境の中で逞しく生き抜いている野生動物だ。ありのままの彼らを見て触れて感じて彼らが暮らす環境への気付きの場として活動し続けて行くことが、今後の大きな役割と考えている。



特別展「海の王者 鮫」の一部

(小樽水族館 館長 伊勢伸哉)



平成26年度道博協学芸員部会 研修会・総会が開催されました

平成26年度道博協学芸員部会研修会および総会が、9月18日～19日に八雲町公民館で開催されました。研修会は2テーマに分かれ、1つは「石器をつくる～たった一つの石器からはじまる総合的な学習～」として、今金町の宮本学芸員を講師として、考古学的成果を取り入れ、自然史的な特徴を解説する総合的なワークショップを参加者も体験し、その運営方法を学びました。もう1つのテーマは「文化財のデジタル記録とその活用」というテーマで、公立はこだて未来大学の川嶋教授と木村教授から、デジタル記録の事例とその活用方法についてお話を伺い、参加者から自館での取り組みや今後の計画を発表しました。

総会では昨年度の事業・決算と、今年度の事業が承認されました。今年度も部会調査研究助成事業・学芸員データベースの構築・部会HPコラムリレーが続けられます。要望の多かったコラムリレーの冊子化については、それを検討するワーキンググループが立ち上がることとなりました。また、出席していた文化庁の内田調査官から、平成32年開館となる国立のアイヌ文化博物館(仮)について概要の説明がありました。

交流会では、活発な意見交換が行われ、サプライズで部会HP上にて開催されていた第1回コラムリレー「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」のページビュー数が多かった上位5名に役員から賞品が贈られました。

翌日には木彫り熊をテーマとした八雲のまちあるきを体験するエクスカージョンを行いました。今年度所管替えが終わってオープンした八雲町木彫り熊資料館や、八雲神社、徳川農場の山林を引き継いだ八雲産業株式会社、熊の檻跡を見学しました。

学芸員部会は個人で加入できる組織です。皆様のご参加をお待ちしています。



集合写真

(八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 大谷茂之)



青少年科学館News KAGAYA星空アート展を終えて

当館開館30周年記念美術企画展として開催された「天空のキャンパス-KAGAYA星空アート展-」では、映像クリエイターKAGAYA氏の絵画、写真、プラネタリウム映像など100点以上の作品を展示、大きな反響を呼び、全国各地からの来場があった。小さな子供からお年寄りまで幅広い年齢層に親しまれた本展を振り返る。

1. 宇宙と神話の世界

KAGAYA氏の作品は、宇宙と神話の世界をモチーフに、全ての作業をコンピューター上で行う「デジタルペインティング」によって制作される。これは、宇宙の豊かな色彩と高いコントラストを表現する手法として、氏が完成させたものだ。鮮やかに描かれた漆黒、浮かぶ星々や神話の世界は見る者の心を掴む。会場には氏の絵筆時代の作品も展示され、その繊細なタッチは大いに感心を集めた。

2. 普遍的な美しさ

満天の星空、月や惑星の模様は誰もが美しいと感じる。これは宇宙(自然)の持つ普遍的な造形美ではなからうか。また、神話や伝説が時代を経てなお色あせないのは、そこに人の持つ素朴な願いや夢が込められ

ているからだろう。入口に展示された絵画「かぐや姫」(約80号)はまさにそれらの美しさを追求した作品だ。日本人であれば、誰もが知る日本最古の物語のワンシーンに、子供も大人も親しみを持って見入っていた。

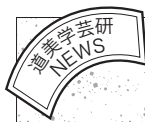
3. 広がった感動の輪

トークショーやプラネタリウムコンサートなどKAGAYA氏と来場者が触れ合う機会も多かった本展は、多くの感動や共感を得ることとなった。ゆっくりと鑑賞できるよう要所に椅子を配置、写真撮影やWeb掲載をOKとしたことも一因だろう。富士のジオラマで撮影体験、神話の登場人物の衣装を着ての記念撮影。口コミやWebを通し、感動の輪が広がった。本展終了後も、「星を見る機会が増えた」「絵画に興味を持った」などの声が寄せられる。新しい自分を見つけ、心に残る展覧会となったことをうれしく思う。



【かぐや姫】故郷の月へ帰る晩が繊細に色彩豊かに描かれている

(北網圏北見文化センター 学芸員 多田成寿)



札幌国際芸術祭2014「都市と自然」の開催 -モエレ沼公園会場について

この夏、札幌市で初となる札幌国際芸術祭が開催された。主な会場として、市街地に位置する北海道立近代美術館、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)、北海道庁赤れんが庁舎、郊外では札幌芸術の森美術館、モエレ沼公園などが選定された。

芸術祭は上田文雄札幌市長の開会宣言のもと、ゲストディレクターの坂本龍一氏発案の作品《旋回するノイズ》で開幕。モエレ沼公園の上空を、特製の笛をつけた200羽の鳩が美しい音色を響かせ飛翔した。開催期間は7月19日から9月28日の72日間。展覧会をメインとしながら、さまざまな催しが繰り広げられた。

モエレ沼公園会場では、坂本龍一氏が作者として関わる2作品および、関連作品が展示された。坂本龍一+真鍋大度による《センシング・ストリームズ-不可視・不可聴》は、ラジオ、テレビ、携帯電話、Wi-Fiなど、我々が昨今頻繁に利用している電子機器が発する電磁波を可視・可聴化。ダイナミックな映像と音で体感させる作品だ。一方、坂本龍一+YCAM InterLabによる《フォレスト・シンフォニー-inモエレ沼》は、世界中の樹木から採取した生体電位のデータを音へと変換させ、仮想の音の森をつくる。木々のひそやかな生命活動を感じられる作品だ。芸術祭のテーマである「都市と自然」を体現するとも言えるこれら2作品が、札幌市

が近代化し、大都市へと移り変わる時代に計画、造成されたこの地・モエレ沼公園に展示されたことは意義深い。

主催者の目標動員数である30万人は9月上旬に突破。モエレ沼公園会場単独でも来場者数は6万人を超えた。多くの市民にとってなじみがないであろう現代アートの祭典を開催した効果は、この後10年後、20年後になって現れてくるものだろう。初回の評判だけにとらわれず、未来の札幌のあり方に焦点をあてた継続開催を期待し、また、アートに関わるものとして、尽力していきたいと思う。



坂本龍一+YCAM InterLab《フォレスト・シンフォニー-inモエレ沼》
写真提供:創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
photo:Keizo Kioku

(モエレ沼公園 学芸員 宮井和美)

館・園の主な展覧会と普及事業 (平成26年11月～平成25年3月の行事予定)

石 狩

- いしかり風の丘資料館(0133-62-3711)
- 9/10～11/10 テーマ展 川と人と漁ー遺跡にみる縄文の河川漁労ー
- 12/20～3/29 テーマ展 資料館のお宝2015
- 1月 出張展示 ミニ展示(連続講座「石狩大学博物学部」関連) 於:市民図書館
- 11/29 トークイベント ウミベオロジー/石狩海辺学2014 於:紀伊國屋書店札幌本店
- 12/20 体験講座 フライドチキン骨格標本をつくる 於:花川地区の施設
- 1月 連続講座 石狩大学博物学部(全2回、4科目) 於:市民図書館
- 2月 野外講座 石狩ビーチコーマーズ/冬の漂着物 於:石狩浜、砂丘の風資料館
- (未定) 体験講座 パラタクソノミスト養成講座(初級)in石狩 於:市民図書館

●札幌芸術の森美術館(011-591-0090)

- 10/10～1/18 企画展 藤城清治の世界展
- 1/25～3/29 企画展 札幌美術展 笠井誠一展

●札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555)

- 12/6、20 サケ皮で靴づくり(実習:1回目皮剥ぎ、2回目加工)
- 11/2、11/30 体験イベント〈サケ・タッチ・プール〉
於:さけ科学館
- 11/8 〈琴似発寒川サケ観察会〉
於:琴似発寒川農誌公園橋付近
- 11/9・16・23 〈サケの人工受精体験〉
於:さけ科学館
- 1/17・31、2/7、3/14 〈わくわくたいけん サケたちのエサやり〉 於:さけ科学館
- 2/21 〈わくわくたいけん サケ稚魚の群泳にエサをやる〉 於:さけ科学館
- 3/28 〈わくわくたいけん イトウのおなかにさわってみよう〉 於:さけ科学館

●北海道開拓記念館(011-898-0456)

- 11/24までの土・日・祝日
体験学習コーナー「北海道開拓記念館 体験ひろばin開拓の村」を開拓の村入り口管理棟で開催中!!
- 11月～1月 巡回展「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」(道東の博物館を回ります)
- 10/29～11/10 足寄動物化石博物館
- 11/15～11/30 根室市総合文化会館

12/6～12/19

浦幌町立博物館

12/25～1/18

釧路市立博物館

●北海道立文学館(011-511-7655)

- 9/6～11/9 特別展 ムーミンの世界展～ヤンソンさんからの贈り物～
- 11/22～1/18 ファミリー文学館“うま”とあそぼう!!
- 1/31～3/22 特別展 小樽山博の文学ー野生よ 退化する現代を撃てー

後 志

●小樽市総合博物館(0134-33-2523)

- 12月～2月 企画展「小学校前の文房具屋さん」
- 3月 企画展「隕石」
- 1/17 第16回青少年のための科学の祭典「小樽大会」

上 川

●士別市立博物館(0165-22-3320)

- 11/2～16 テーマ展「下川まちなかアートフェスタがやってきた」
- 11/23～12/14 テーマ展「土別ゆかりの造形品展」
- 12/7～1/25 テーマ展「未年のカレンダー展」
- 1/11～2/1 特別企画展「雪と氷の科学者～中谷宇吉郎展」
- 2/14 博物館夜間開館「雪あかりミュージアム」
- 2/15～3/8 テーマ展「ひな人形展」
- 3/22～4/12 テーマ展「幻の日本画～牧/香展IV」
- 11/8 講座「米づくり体験④味覚」
- 12/6 講座「Jr博物館クラブ⑦」
- 12/20 講座「クリスマスレクチャー」
- 1/10 講座「お正/体験」
- 1/17 講座「雪と氷の実験」、講座「Jr博物館クラブ⑧」
- 1/31 講座「昔の手仕事」
- 2/21 講座「Jr博物館クラブ⑨」
- 2/28 講座「冬の自然観察会」
- 3/14 講座「宝石みがき」

●富良野市博物館(富良野市生涯学習センター内 0167-42-2407)

- 11/8～3/22 特別展 富良野アートギャラリー 収蔵作品展(後期)
- 11/8 美術講座 アートを楽しもう!第2回「古代ギリシャ・ローマのおっちゃんを描く」
- 12/6 講演会 魅力再発見!ふらの・建築探訪

- 1/8 美術講座 アートを楽しもう!第3回
「工作にチャレンジ!」
- 2/7 美術講座 アートを楽しもう!第4回
「模写にチャレンジ!」
- 3/15 自然観察会 富良野の自然に親しむ
集い第5回「冬のバードウォッチング」

網走**●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)**

- 11/1～11/30 展覧会「北方のナイフ～暮らしを支える道具」
- 12/6～12/14 展覧会「東京農業大学学芸員課程
展示実習」
- 1/6～1/25 展覧会「オホーツクシリーズ⑦
写真展 北の状景」
- 1/31～4/5 展覧会「白い食べ物・赤い食べ物
～北方狩猟・牧畜民の食文化」
- 11/15 講座「オホーツク土器の考古学」
- 12/6 講座「ウイльтаの語りもの
～英雄シーゲーニの冒険と北方世界」
- 12/13 はくぶつかんクラブ「冬休みミュージアム・アルバムづくり」
- 12/20 はくぶつかんクラブ「北方民族の文
様で作るオーナメント」
- 1/10 はくぶつかんクラブ「革でつくるミニ
バッグ」
- 1/16・17 講習会「とんぼ玉づくり」
- 1/24 講座「南極での雪氷研究」
- 1/31 講座「生きている食料庫－食材と
してのトナカイ」
- 2/14 はくぶつかんクラブ「雪あそび」
- 2/21 講座「現代モンゴルの食事：草原と
都市」
- 3/7 講座「ウシも喜ぶ!?新しい酪農
－オホーツク地域の牛乳生産の現在」

十勝**●帯広百年記念館(0155-24-5352)**

- 10/4～11/30 企画展「アイヌの工芸－東北のコ
レクションを中心に－」
- 2/7～3/1 企画展「匠の技・よみがえる浮世絵」
ロビー展「ゲロリからはじまるスケー
トの歩み」
- 1/15～2/1 ロビー展「ひな人形展」
- 2/7～3/3 企画展「新着資料展」
- 3/7～3/29 ロビー展「公募写真展」
- 10月～11月 創造活動講座「楽しくデッサン教室」
11/9 創造活動講座 版画講座「年賀状
を作ろう」
- 11/22 博物館講座「1万キロを飛んだカモ」
- 11/29・30 体験教室「はく製作教室」
- 12/20 博物館講座「大地が語る十勝の自
然史」
- 12/23 体験教室「じょうもん人と腕くらべ
～勾玉づくり～」
- 1/17 博物館講座「大昔のとちかち」
- 2/21 博物館講座「アラスカの精霊たち」
- 3/7 博物館講座「活動成果発表会」

根室**●標津サーモン科学館(サケの水族館 0153-82-1141)**

- 11月上旬 シロザケの産卵行動観察会
- 11月上旬 シロザケの人工授精体験学習

訃報

個人会員 柏倉勝雄様(満72才)におかれましては、平成26年9月23日にご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします。

【土の館】 http://www.jsme.or.jp/kikaiisan/data/no_062.html

上富良野町の「土の館」－北海道の土作りとトラクターの博物館－が、2014年8月7日に日本機械学会「機械遺産」 機械遺産 第62号/MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.62に指定されました!!

【博物館 網走監獄】 <http://www.kangoku.jp/>

世界最大の旅行口コミサイト『トリップアドバイザー』の「2014 TRAVELERS' CHOICE 人気の美術館・博物館トップ10-日本」で、博物館 網走監獄が10位になりました。